

「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）Part2

日置 将之（中之島図書館）

1. 「図書館を学ぶ相互講座」について

「図書館を学ぶ相互講座」（以後、相互講座）は、大阪府立中之島図書館（以後、中之島図書館）の中にあった食堂が閉鎖された際、跡地の有効活用を考える中で個人や団体等に協力を呼びかけ、2009年4月から開始した講座である。開始当初の趣旨は「図書館に関する知識を、共に学習し、相互に深めようとする連続講座」となっており、図書館情報学関係の大学教員や図書館員を主な対象としつつ、市民も参加できる無料講座としてスタートした。その後もこの趣旨等は引き継がれ、図書館情報学関係者が互いに刺激啓蒙し、教え学びあう場となることを目指して開催されていた。

当初は、図書館を学ぶ相互講座（実行委員会）が主催で、中之島図書館は「協力」という形式で開催していたが、その後、中之島図書館を取り巻く状況の変化に伴い「協力」から「共催」となった。また、会場も食堂跡地から別館の多目的スペース3に変わるなど変遷したが、2025年3月をもって、中之島図書館が講座運営等に携わる共催形式での開催は終了した。

2. 「図書館を学ぶ相互講座」の記録について

相互講座の開始に至るまでの詳細な経緯や開催形式、会場等の変遷については、『「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）』（大阪府立図書館紀要45号 2017年3月）に掲載されている^①。また、同記事では、講座の開始当初から2016年度までの開催内容が年表形式で記録されている。

これ以降の記録については、中之島図書館のWebページ^②に掲載されているが、終了した事業の記録であるため当該ページにたどり着き難く、年度ごとに個別のページとなっていることから、通覧もし難い状況となっている。また、公開されている情報の掲載媒体がWebページのみであるため、ホームページ全体のリニューアル等が行われた場合、当該ページが参照できなくなる恐れもある。

そこで本稿では、相互講座の記録を閲覧可能な状態で後世に残すため、『「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）』と同じ年表形式で、2017年度から共催形式での講座が終了した2024年度までの記録を掲載する。これにより、2つの記事を合わせれば、相互講座の開始当初から2024年度までの内容や参加者数等が通覧できる。また、『大阪府立図書館紀要』はWebでの公開だけではなく、紙媒体でも大阪府立図書館に所蔵されることから、相互講座の記録を永続的に閲覧することが可能になると考えられる。

※年表の左より 2 列目は実施月日と曜日、3 列目はテーマと発表者（発表者等の所属は当時）、一番右端の列は、参加者数を示す。2020 年度以降の参加者数のうち、「()」で記載しているものは Zoom での参加人数（内数）。

平成 29 年度（2017 年度）			
1	4/8（土）	相互講座から、図書館学資料保存、国際連携へ：新年度の企画や記念事業の展開を含んで 志保田務（アジア太平洋図書館情報学会） ※日本図書館研究会図書館学資料保存研究グループ（以後、図書館学資料保存研究グループと略記）と共催	17
2	5/13（土）	図書館の多様化とフィクションの中の図書館 佐藤毅彦（甲南女子大学） ※日本図書館研究会図書館サービス研究グループ（以後、図書館サービス研究グループと略記）と共催	22
3	6/10（土）	21 世紀の図書館職員養成：アメリカとオーストラリアを事例に（パート 2：オーストラリア編） 大城善盛（元同志社大学） ※図書館サービス研究グループと共催	20
4	7/8（土）	ハンセン病療養所における盲人と読書（2）貸出要求に対する点字図書館の拒否とその後 立花明彦（静岡県立大学短期大学部） ※図書館学資料保存研究グループと共催	17
5	8/12（土）	1.アジア太平洋の図書館情報学と日本 志保田務（LISSASPAC 副会長） 2.韓国の図書館情報学研究の振興と国等による支援 呉東根（LISSASPAC 会長） 3.オセアニア地域向け展開の可能性 大城善盛（元同志社大学） 4.国際学校図書館協会（IASL）とアジア太平洋地域 長倉美恵子（元東京学芸大学） ※図書館サービス研究グループ、京都図書館学研究会、LISSASPAC と共催	32
6	9/19（土）	1.自由宣言改訂・倫理綱領制定と石塚栄二さん 塩見昇（大阪教育大学名誉教授）	46

		2.「読書の自由と図書館：読書環境の保障に果たす図書館の意義」「インターナショナルスクールと一条校併設図書館」 石塚栄二（帝塚山大学名誉教授） ※図書館学資料保存研究グループと共催	
7	10/14 (土)	図書館基本計画の策定を巡って：淡路市立図書館基本計画 原田安啓（姫路大学教授、淡路市立図書館基本計画策定検討会会長） ※図書館サービス研究グループと共催	16
8	11/11(土)	公立図書館司書のライフプランについて考える 石橋進一（同志社女子大学嘱託講師） ※図書館サービス研究グループと共催	11
9	12/9(土)	戦時期大阪の『MLA 連携』～大阪文化施設協会と長田富作資料～ 門上光夫（大阪府立中央図書館） ※図書館学資料保存研究グループと共催	17
10	1/13(土)	天職としての図書館長：佐野友三郎 面地豊（神戸大学経営学部博士） ※図書館学資料保存研究グループと共催	17
11	2/10(土)	ALA の図書館情報学教育修士プログラムの認定基準とその背景 大城善盛（元同志社大学） ※図書館サービス研究グループと共催	11
12	3/10(土)	メディアとしての学校図書館：勉強出版『学校図書館への研究アプローチ』への参画をとおして 大平睦美（京都産業大学教授） ※図書館サービス研究グループと共催	17
年間参加者合計 243 名			

平成 30 年度（2018 年度）			
1	4/14(土)	レファレンス調査団訪米（1959）から I-LISS（国際図書館情報学会）まで：岩猿敏生に始まる国際図書館研究 志保田務（桃山学院大学名誉教授） 前川和子（元大手前大学） ※図書館サービス研究グループと共催	20

2	5/12 (土)	アメリカ図書館協会最近の四半世紀：ALA 永年会員表彰を受けて 原田安啓 (姫路大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	15
3	6/9 (土)	21 世紀のオンタリオ州の公共図書館サービス 村上泰子 (関西大学) ※図書館サービス研究グループと共催"	23
4	7/14 (土)	図書館の雇用形態の多様化は、フィクションの作品でどのように扱われているか： 事例研究『みさと町立図書館分館』『図書館は、いつも静かに騒がしい』を中心に 佐藤毅彦 (甲南女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	15
5	8/4 (土)	情報リテラシーと図書館 瀬戸口誠 (梅花女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	21
6	9/8 (土)	平井尊士武庫川女子大学教授追悼：研究活動の軌跡 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) 中村恵信 (神戸松蔭女子学院大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	16
7	10/13 (土)	図書館専門職論：国際比較 大城善盛 (元同志社大学) ※図書館サービス研究グループと共催	21
8	11/10 (土)	LISSASPAC バンコック大会 (2018.8) を振り返って 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) ほか学会参加者 ※図書館サービス研究グループと共催	13
9	12/8 (土)	図書館現場での研究を尋ねる：学校図書館から可能性を求めて 村上幸二 (奈良学園大学登美ヶ丘図書館) ※図書館学資料保存研究グループと共催	16
10	1/12 (土)	『児童サービス論』と『読書と豊かな人間性』の比較試論：司書、司 書教諭、そして学校司書の教育科目を考える 坂下直子 (京都女子大学兼任講師) ※図書館サービス研究グループと共催	24

11	2/9 (土)	イギリス図書館をめぐって：写真の旅 藤井兼芳（元大阪府立中之島図書館） ※図書館サービス研究グループと共催	17
12	3/9 (土)	司書採用の動向と試験対策—合格体験記を交えて— 家禰淳一（奈良大学） 板橋愛（神戸大学附属図書館） ※図書館サービス研究グループと共催	37
年間参加者合計 238 名			

平成 31・令和元年度（2019 年度）			
1	4/27 (土)	図書館専門職団体の矜持：明治～大正期 志保田務（桃山学院大学名誉教授） ※図書館学資料保存研究グループと共催	20
2	5/25 (土)	JLA の司書職に対する考え方の限界 大城善盛（元同志社大学） ※図書館サービス研究グループと共催	22
3	6/22 (土)	『100 の才能の図書館』とプロジェクト『2040 年の図書館』：オランダの公共図書館の事例から 柳勝文（龍谷大学） ※図書館サービス研究グループと共催	24
4	7/27 (土)	イタリア マラテスティアーナ図書館（Biblioteca Malatestiana）とその歴史的背景 山本貴子（大谷大学） ※日本図書館研究会比較図書館情報学研究グループ（以後、比較図書館情報学研究グループと略記）と共催	20
5	8/24 (土)	市民協働による図書館整備～瀬戸内市の政策形成過程を中心に～ 嶋田学（奈良大学） ※図書館サービス研究グループと共催	27
6	9/28 (土)	北欧の図書館をめぐって 孫誌銜（大手前大学） ※図書館サービス研究グループと共催	19

7	10/26 (土)	国際図書館情報学術大会 (ICLIS) 出席報告 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) ほか ※国際図書館情報学会日本支部と共催	15
8	11/30 (土)	守口市立図書館を“ほんもの”にするために～財政の視点から 伊藤景子 (元朝日新聞社記者) ※図書館サービス研究グループと共催	24
9	12/28 (土)	図書館における非正規雇用を考える：労働生産性の向上と公共セクター、同一労働同一賃金と会計年度任用職員は図書館労働を画期的に改善するか 原田安啓 (姫路大学) ※日本図書館研究会第 353 回研究例会・図書館サービス研究グループと共催	44
10	1/25 (土)	学校図書館における教科学習のための教員支援に関する研究 大平睦美 (京都産業大学) ※図書館サービス研究グループと共催	24
11	2/22 (土)	※新型コロナウイルス感染予防のため中止(4/25 に実施) 情報検索と歩んだ時間 河塚幸子 (元桃山学院大学非常勤講師) ※図書館学資料保存研究グループと共催	中止
12	3/28 (土)	※新型コロナウイルス感染予防のため中止(10/24 に実施) ネット時代、公共図書館は時事情報をどのように提供するのか？ 石橋進一 (同志社女子大学非常勤講師) ※図書館サービス研究グループと共催	中止
年間参加者合計 239 名			

令和 2 年度 (2020 年度)		2 段目は Zoom での参加人数 (内数)	
1	4/25 (土) 午前	※新型コロナウイルス感染予防のため Zoom のみで開催 Web 学修時代と図書館：MOOCs 等をめぐって 藤間真 (桃山学院大学) ※図書館サービス研究グループと共催	(13)

2	4/25 (土) 午後	<p>※新型コロナウイルス感染予防のため Zoom のみで開催</p> <p>情報検索と歩んだ時間</p> <p>河塚幸子 (元桃山学院大学非常勤講師)</p> <p>※図書館学資料保存研究グループと共催</p>	(14)
3	5/23 (土)	<p>※新型コロナウイルス感染予防のため Zoom のみで開催</p> <p>F. チェニーとレファレンスの基盤</p> <p>前川和子 (元大手前大学)</p> <p>※図書館学資料保存研究グループと共催</p>	(15)
4	6/27 (土)	<p>司書職制度の再構築：日本の図書館職に求められる専門性</p> <p>大城善盛 (元同志社大学)</p> <p>※比較図書館情報学研究グループと共催</p>	22 (9)
5	7/18 (土)	<p>『分類・目録法入門』の新改訂</p> <p>志保田務 (桃山学院大学名誉教授)</p> <p>村上幸二 (奈良学園大学登美ヶ丘図書館)</p>	11 (-)
6	8/22 (土)	<p>図書館・まち育て・デモクラシー</p> <p>嶋田学 (奈良大学)</p> <p>※図書館サービス研究グループと共催</p>	23 (6)
7	9/26 (土)	<p>図書館・文書館・博物館の連携をめぐる現状と課題：文書館・博物館 領域での日本の新たな政策動向を踏まえ</p> <p>古賀崇 (天理大学)</p> <p>※図書館サービス研究グループと共催</p>	19 (10)
8	10/24 (土)	<p>ネット時代、公共図書館は時事情報をどのように提供するのか？</p> <p>石橋進一 (同志社女子大学非常勤講師)</p> <p>※図書館サービス研究グループと共催</p>	20 (7)
9	11/28 (土)	<p>専門職制度の国際化と AI 技術の発展：米国における公認会計士制度 の変遷を中心に</p> <p>小澤義昭 (桃山学院大学経営学部)</p> <p>※比較図書館情報学研究グループ・国際図書館情報学会日本支部と共催</p>	8 (-)
10	12/26 (土)	<p>図書館でつなぐアジアの知</p> <p>山本昭 (愛知大学文学部)</p> <p>※比較図書館情報学研究グループ・国際図書館情報学会日本支 部図書館情報学研究集会 2020 と共催</p>	23 (11)

11	1/23 (土)	図書館と LGBTQ : 関連資料の提供を中心に 水沼友宏 (桃山学院大学経営学部) ※日本図書館研究会第 365 回研究例会・図書館サービス研究グループと共催	61 (52)
12	2/27 (土)	日本の公立図書館は公共の施設なのか: 戦後の歩みに照らして 薬師院はるみ (金城学院大学文学部) ※図書館サービス研究グループと共催	22 (-)
13	3/27 (土)	『出版ニュース』の廃刊: 出版ニュース社の 70 年と図書館 清田義昭 (元出版ニュース社代表取締役) ※図書館学資料保存研究グループと共催	19 (-)
年間参加者合計 270 名 (内 Zoom 137 名)			

令和 3 年度 (2021 年度)		2 段目は Zoom での参加人数 (内数)	
※書庫耐震工事準備作業のため、6、7、8 回は相互講座実行委員会により単独開催・別会場となった、このため参加者数不明。			
1	4/24 (土)	図書館会議と国際化 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) 岡田大輔 (相愛大学) ※図書館サービス研究グループ・国際図書館情報学会日本支部と共催	14 (4)
2	5/22 (土)	※新型コロナウイルス感染予防のため中止(8/28 に実施) こども本の森 中之島 前川千陽 (こども本の森 中之島館長) ※図書館サービス研究グループと共催	中 止
3	6/26 (土)	最近の文芸等に見る<図書館>の描写 佐藤毅彦 (甲南女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	24 (9)
4	7/24 (土)	国際図書館情報学会日本支部の今後について 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) ほか ※比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループ・ 図書館学資料保存研究グループ・国際図書館情報学会日本支部と共催	22 (10)
5	8/28 (土) 午前	堺市の図書館 1916-2016 松井孝 (元・堺市立中央図書館長) ※図書館学資料保存研究グループと共催	21 (3)

(2)	8/28 (土) 午後	こども本の森 中之島 前川千陽 (こども本の森 中之島館長) ※図書館サービス研究グループと共催	17 (一)
6	9/25 (土)	大阪女学院大学・大阪女学院短期大学 午前10～12時 丸本郁子先生の足跡：戦う図書館人が未来に残したもの 小松泰信 (大阪女学院大学・大阪女学院短期大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	—
7	10/9 (土)	大阪市立中央図書館 中会議室 午前10～12時 大阪市立図書館のあゆみ —1970年前後を中心に— 宮田英二 (大阪市立中央図書館) ※図書館学資料保存研究グループと共催	—
8	11/27 (土)	大阪市中央公会堂 第4会議室 午前10～12時 新型コロナ感染状況下の日本の図書館 志保田務 (桃山学院大学名誉教授) ほか ※比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループ・ 図書館学資料保存研究グループ・国際図書館情報学会日本支部と共催	—
9	12/25 (土)	国立国会図書館が所蔵せず公立図書館が所蔵・除籍している図書 水沼友宏 (桃山学院大学経営学部) ※図書館学資料保存研究グループと共催	19 (7)
10	1/22 (土)	障害者差別解消法改正と図書館 原田安啓 (姫路大学) ※図書館サービス研究グループと共催	17 (5)
11	2/26 (土)	アプリを使った図書館連携 千葉市での実践 大平睦美 (京都産業大学) ※図書館サービス研究グループと共催	22 (11)
12	3/26 (土)	図書館学資料としての公共図書館地域資料：堺市立図書館所蔵資料を 中心に 竹田芳則 (奈良大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	25 (9)
年間参加者合計 181名 (内 Zoom 58名)			

令和4年度(2022年度)		2段目はZoomでの参加人数(内数)	
1	4/23(土)	アメリカ合衆国のスクール・ライブラリアン：その理念と現実 大城善盛(元同志社大学) ※比較図書館情報学研究グループと共催	21 (7)
2	5/28(土)	日本点字図書館の重責 立花明彦(日本点字図書館館長 常務理事) ※図書館学資料保存研究グループと共催	22 (4)
3	6/18(土)	『図書館にドン・キホーテがいた頃：1980-90年代の図書館少数者運動』を書いて 東條文規(香川県図書館学会会長) ※日本図書館研究会第377回研究例会・図書館学資料保存研究グループと共催	67 (37)
4	7/23(土)	近年の韓国図書館界の動向：図書館サービス活性化を支える国家法制の整備 孫誌銜(大手前大学) ※I-Liss Japan・比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループと共催	23 (9)
5	8/27(土)	戦前から戦中期の堺市立図書館：田島清館長の活動を中心に 竹田芳則(奈良大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	32 (6)
6	9/24(土)	インターナショナルスクールと一条校併設図書館 中野ひかる(関西学院千里国際中等部・高等部) Dana Berglund, Osaka International School of Kwansai Gakuin ※比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループと共催	24 (9)
7	10/22(土)	図書館小説から「直木賞」へ 門井慶喜・米澤穂信につづくのは・・・ 佐藤毅彦(甲南女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	17 (6)
8	11/26(土)	図書館とネーミングライツ 田中伸樹(桃山学院大学非常勤講師) ※図書館サービス研究グループと共催	20 (8)
9	12/24(土)	図書館とアドボカシー 常世田良(元立命館大学) ※I-Liss Japan・比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループ・図書館学資料保存研究グループと共催	23 (5)

10	1/28 (土)	箕面市立図書館と大阪大学附属図書館の連携 赤澤久弥 (大阪大学附属図書館) ※日本図書館研究会第 382 回研究例会・図書館サービス研究グループと共催	68 (45)
11	2/4 (土)	書評紙 (誌)・出版業界紙 (誌) の消長と図書館におけるアベイラビリティ 家禰淳一 (愛知大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	22 (10)
12	3/25 (土)	名古屋市アクティブライブラリー構想の本質と課題 薬師院はるみ (金城学院大学) ※図書館サービス研究グループと共催	21 (-)
年間参加者合計 360 名 (内 Zoom 146 名)			

令和 5 年度 (2023 年度)		2 段目は Zoom での参加人数 (内数)	
1	4/22 (土)	アメリカの学校図書館史を理解するために：ウィガン (W. A. Wiegand) の図書館史観 (試論) 大城善盛 (元同志社大学) ※比較図書館情報学研究グループと共催	20 (5)
2	5/27 (土)	インターネット時代の出版を経験して：山本順一先生古希記念集 沖田克夫 (NPO access Lib 理事長) 前川和子 (桃山学院大学大学院特別研究員) ※図書館学資料保存研究グループ・比較図書館情報学研究グループと共催	20 (5)
3	6/24 (土)	生まれ変わった泉大津市立図書館 河瀬裕子 (泉大津市立図書館長) 司会：嶋田学 (京都橘大学・泉大津市図書館協議会会長) ※図書館サービス研究グループと共催	26 (9)
4	7/22 (土)	TRC MARC における NCR2018 への対応と図書館での活用 横山英子 (図書館流通センターデータ部・JLA 目録委員会委員) ※図書館サービス研究グループと共催	23 (7)
5	8/26 (土)	1970 年代における堺市立図書館の展開：栗原均館長時代を中心に 竹田芳則 (奈良大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	26 (6)

6	9/16 (土)	文豪が残した点訳、朗読の許諾葉書 立花明彦 (日本点字図書館館長) ※図書館学資料保存研究グループと共催	20 (3)
7	10/28 (土)	小牧市の新図書館に合わせた配架計画と図書館サービス 花里千賀子 (小牧市中央図書館) ※図書館サービス研究グループと共催	21 (6)
8	11/25 (土)	奴隷解放宣言から公民権運動に見る全米大陸の黒人図書館員の道のり part1 原田安啓 (元姫路大学教授) ※図書館学資料保存研究グループと共催	16 (2)
9	12/23 (土)	図書館と複本問題 常世田良 (元立命館大学) ※図書館サービス研究グループと共催	30 (7)
10	1/27 (土)	行革と図書館の指定管理：阪南市立図書館の場合 加藤靖子 (元阪南市立図書館館長) 司会：嶋田学 (京都橘大学) ※図書館サービス研究グループと共催	35 (4)
11	2/17 (土)	生成 AI が図書館に与える影響：情報収集の変化と情報倫理の観点から 森美由紀 (梅花女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	30 (5)
12	3/23 (土)	生成 AI が図書館に与える影響：情報アクセス保護の観点から 瀬戸口誠 (梅花女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	32 (6)
年間参加者合計 299 名 (内 Zoom 65 名)			

令和 6 年度 (2024 年度)		2 段目は Zoom での参加人数 (内数)	
1	4/27 (土)	学校図書館専門職 (員) の諸問題 大城善盛 (元同志社大学) ※比較図書館情報学研究グループと共催	27 (8)

2	5/25 (土)	近年の文芸作品にみる図書館観・関連領域からの検討も視野に 佐藤毅彦 (甲南女子大学) ※図書館サービス研究グループと共催	19 (6)
3	6/29 (土)	故志保田務博士の晩年の取り組み ― 遺された資料の分析から見えてきたもの 前川和子 (桃山学院大学特別研究員) ※図書館学資料保存研究グループと共催	22 (6)
4	7/27 (土)	松阪での小津安二郎の姿 岩岡太郎 (小津安二郎松阪記念館) ※図書館学資料保存研究グループと共催	21 (4)
5	8/24 (土)	政令都市となった堺市と地域図書館 発表者: 松井孝 (元堺市立図書館) 司会: 竹田芳則 (奈良大学) ※図書館学資料保存研究グループと共催	21 (1)
6	9/28 (土)	出版ニュースアーカイブと『加藤宗厚先生のお仕事』を編集して 清田義昭 (NPO 法人共同保存図書館・多摩) ※図書館学資料保存研究グループと共催	15 (5)
7	10/12 (土)	韓国の司書職制度の現状について 孫誌銜 (大手前大学) 呉東根 (韓国 啓明大学校 Dong-Geun Oh) ※比較図書館情報学研究グループ・図書館サービス研究グループと共催	17 (5)
8	11/30 (土)	えほん図書館における乳幼児向けの児童サービスとオリジナル分類 花里千賀子 (小牧市中央図書館) ※図書館サービス研究グループと共催	22 (4)
9	12/28 (土)	学校司書の現状と今後について 四方未来 (学校司書・日本図書館研究会研究委員) ※図書館サービス研究グループと共催	28 (7)
10	1/25 (土)	デジタルアーカイブの最新事情 田山健二 (TRC - ADEAC 株式会社社長) ※図書館学資料保存研究グループと共催	20 (8)

11	2/22 (土)	大阪府立中之島図書館の取り組みについて 大阪府立中之島図書館職員	18 (2)
12	3/29 (土)	図書館を学ぶ相互講座の歴史を振り返る：志保田務氏の貢献と功績 前川和子 (桃山学院大学特別研究員) 中村恵信 (元神戸松陰女子学院大学) ※図書館学資料保存研究グループ・図書館サービス研究グループ・ 比較図書館情報学研究グループと共催	30 (7)
年間参加者合計 260 名 (内 Zoom 63 名)			

3. 「図書館を学ぶ相互講座」の実施内容について

相互講座は、2009年4月の開始から2024年3月までの間に、中止となった回を除いて230回開催しており、中之島図書館開催分（Zoomのみの開催含む）の延べ参加者数は3926名となっている。また、2020年度からは、新型コロナウイルス感染拡大への対応等を契機として、Zoomによるリアルタイム配信^⑩も実験的に開始しており、469名がこの方法で参加している。

230回開催した講座のうち、最も参加者数が多かったのは「箕面市立図書館と大阪大学附属図書館の連携」（2023年1月）の68名で、このうちZoomでの参加者は45名となっている。参加者数が60名を超えた回はこのほかにも2回（2021年1月、2022年6月）あるが、いずれもZoomによる参加者が多数を占めている。リアルタイム配信により会場の場所や広さに関する制約が無くなったことで、参加者を増やすことができたのではないかと考えられる。

公共図書館を会場とし、15年以上も継続してほぼ毎月開催している図書館関係の公開講座は、国内ではほかに類例がないと考えられる。発表の内容については多岐に渡ったり、図書館関連のテーマを幅広く取り上げているが、「図書館業務におけるICタグ導入」（2010年6月）、「図書館における非正規雇用を考える」（2019年12月）、「生成AIが図書館に与える影響」（2024年2月・3月）といった、その時々々の時宜に即したテーマも設定されていた。また、「韓国文献情報学の最近の動向・韓国の図書館事情」（2014年10月）や「アメリカ図書館協会最近の四半世紀」（2018年5月）、「北欧の図書館をめぐって」（2019年9月）等の、外国の図書館事情に関するテーマも年に1～2回程度は設定されており、国際色豊かな内容となっていた。そのほか、「高槻市立図書館の挑戦」（2015年9月）や「生まれ変わった泉大津市立図書館」（2023年6月）等、様々な図書館の取り組みも紹介されており、事例共有の場ともなっていた。

発表者については、大学教員等の研究者が中心ではあるが、現場の図書館員等による発表も多く見られることから、研究者と図書館員等が相互に学びあう場にもなっていたと考えられる。ときには、関東など遠方から発表者が招聘されることもあった。関西では通常聞けないような話を聞けるだけでなく、遠方の図書館情報学関係者とも交流ができる貴重な機会を提供していた。

相互講座の成果については、図書館に関する様々なテーマについて継続的に学べる場を提供したことで、関西を中心とした図書館情報学関係者の知識等の底上げができたことが第一に挙げられるだろう。また、発表テーマに関する活発な意見交換を通じて、発表者と参加者はもちろん、参加者同士でも交流が生まれることで、人脈形成のお手伝もできたのではないと思われる。

そのほか、具体的な成果としては、相互講座の実行委員長をされていた志保田務氏（桃山学院大学名誉教授）が、この講座を通じて「司書課程受講者などの継続学習をカバー、アフターケアしよう」という意図があり、実際に「この講座から大学院の図書館学専攻に進む人があり、公共図書館、学校図書館に就職する人も何人かおられます。」と述べられている⁽⁴⁾⁽⁵⁾。相互講座を通じて参加者が学びを深め、大学院進学や図書館への就職等を後押しできたのであれば、それは大きな成果と言えるだろう。

中之島図書館における成果としては、講座開始当初に意図した館内スペースの有効活用はもとより、参加者が相互に学びあう場を継続的に提供することで、知識を深め、活動の幅を広げたいと考えている方に対しては、一定の貢献ができたのではないかと考えている。そのほか、相互講座では中之島図書館そのものをテーマとした発表も7回行われている。これにより、中之島図書館の取り組みをPRでき、発表を担当した職員にとっては、プレゼンテーションスキルの研鑽や自身の担当業務内容等を整理する良い機会となった。

4. あとがき

相互講座の実行委員長として運営を牽引されていた志保田氏が、2023年12月に急逝された。これを受け、再結成の実行委員会のメンバー（実行委員長：藤間真：桃山学院大学、事務局長：中村恵信：元神戸松蔭女子学院大学、事務局次長：村上幸二：神戸松蔭女子学院大学、相談役：藤井兼芳：元大阪府立図書館）と相互講座の今後について協議し、中之島図書館が講座運営等に携わる共催形式での開催は終了することとなった。

志保田氏には、相互講座の立ち上げから運営に至るまで、多大なるご尽力をいただいた。同氏の情熱と献身がなければ、この講座を15年以上も続けることはできなかったと考えられる。志保田氏には心から謝意を表するとともに、ご冥福をお祈りしたい。また、この講座は実行委員会の皆様の協力によって継続し、多くの方々に愛される学びの場として機能してきた。実行委員会の皆様にも深く感謝したい。

中之島図書館との共催ではなくなり、実行委員会も一新されたとのことだが、相互講座自体は現在も開催されている。今後も様々な学びにつながる講座として継続されることを期待したい。

注・引用

- (1) 藤井兼芳、志保田務「「図書館を学ぶ相互講座」の歩み（年表）」70頁～81頁、『大阪府立図書館紀要』45、大阪府立図書館、2017年
- (2) 令和6年度 図書館を学ぶ相互講座、“大阪府立中央図書館ホームページ”（オンライン）、入手先（<https://www.library.pref.osaka.jp/73870-2>）、（参照2025年11月10日）
- (3) Zoomのホストは実行委員でもある桃山学院大学の藤間真氏が担われた。
- (4) 志保田務「相互講座から、図書館資料保存、国際連携へ：新年度の企画や記念事業の展開を含んで」図書館を学ぶ相互講座（2017年4月8日）配布資料
- (5) 志保田務「「学び」に卒業なし：司書課程から“図書館を学ぶ相互講座”へ」10頁～15頁、『司書課程年報』12、桃山学院大学、2017年